

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
4	川崎市立大師小学校	梶 康子

学校教育目標	今年度の重点目標			
○豊かな心を持ち、たくましく生きる児童の育成 【自立】「進んで学ぶ子」 【共生】「思いやりのある子」 【創造】「明るく元気な子」	○学習指導要領に則った指導計画を推進します。 ・個別最適な学びと、協働的な学びの実現 ・分かる楽しい授業 ・基礎・基本の定着 ・校内研究の充実 ・学習環境の整備 ・GIGAスクール構想の推進	○「ひと」「もの」「こと」とのかかわりを大切にします。 ・かかわり合いの充実 ・命、心の教育の充実 ・支援教育Coを中心とした特別支援教育の充実及び外部機関との連携 ・キャリア在り方生き方教育の推進	○学校教育目標を具現化するため全職員で全児童を育みます。 ・全職員での情報共有 ・安心して楽しく過ごせる学校づくり ・校内環境の整備 ・体力づくりの推進	○開かれた学校づくりに努めます。 ・学校公開、学校評価の実施 ・GIGAや情報配信システムの有効活用と情報管理 ・地域との交流、連携、幼保小、小中との連携

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
よく考え、「よく聞き、学んで学ぶ子」の育成	よく考え、よく聞き、学び合うことができるように授業の工夫をしている。	授業研究や研修の場を通して学習のルールや進め方を確立させ、学び合いの場を大切に設定して授業を行うようにしてきた。学校評価でも、児童及び教職員では、9割が肯定的に捉えている。しかしながら、児童が進んで勉強していると感じている保護者は7割以下に留まっている。与えられた課題については真面目に取り組めるが、自ら進んで学習する姿に結び付いていない面もあることが課題となっている。	学校全体で学習ルールの共通理解を図り、一人一人に定着するよう繰り返し指導していく。小グループでの話し合いの場を適切に設けるなどして、学び合いを大切にしていきたい。自信をもって自分の意見を言えるようにするための支援方法、友達と意見を交わすことで得られる思考の広がりや高まりを実感させられる指導方法等、学校全体で指導に力を入れていく。
	子どもたちが自分の意見を言ったり、友達の話や意見を最後まで聞いたりして、自分の考えを広げることができるように授業改善している。	教職員も児童も80%以上肯定的に捉えているが、保護者の割合はそれよりも低く6割程度である。授業のはじめには、学習課題を明確にし、見通しをもって学習に取り組めるよう努めている。1割以上の子どもたちは、自分の意見を持ったり既習を生かして粘り強く学習に取り組んだりすることに苦手意識があり、課題となっている。	一人一人が自分の考えをもち、自力で課題解決するためには個々の様子を丁寧に見取り、それぞれに合わせた適切な支援を取っていくことが大切となってくる。その過程で友達の考えにも興味をもって聞く姿勢が育つと考えられる。そのために教材研究の充実、校内研修・校外での研修に積極的に参加するなどして授業力向上に引き続き努めていく。
	子どもたちが「見方・考え方」を働かせて問題を見だし、解決策を考えることができるように授業改善している。	教職員も児童も80%以上肯定的に捉えているが、どちらも「少し思う」の割合が多いため、既習を生かして考えることや、最後まで粘り強く学習に取り組むことに、教える側も教えられる側も少し苦手さを感じている結果となった。保護者の割合はそれよりも低く7割弱である。	校内研究の柱である生活科や総合の学習を中心に、どの教科においても課題設定から解決まで、子どもたちの興味関心を大切に、子どもたち自身が見通しをもって学習に取り組めるよう展開していく。授業のはじめに学習課題を明確にする。また既習事項を生かして課題解決に臨めるよう常に意識して指導していく。
	週4日昼の時間等を活用した「学習タイム」設け、基礎・基本(読む・書く・計算)の定着を図ったり、計画的に家庭学習に取り組めるよう具体的に提案したりしている。	学習タイムが2年目を迎え、基礎的な知識・技能を確実に習得させる取り組みとして定着してきた。知識の確実な定着や主体的に学習に取り組む姿勢を目指し計画的に家庭学習を出してきたが、今年度も低学年の段階から児童の約2割が家庭学習に取り組めていないと回答している。保護者から見ると3割以上が取り組めていないとの回答なので、取り組める児童と取り組めない児童とに二極化の改善には至っていない。	引き続き、学校での学習内容の確実な定着を目指し、計画的に家庭学習を出していく。また、授業の中でも、自分で学習計画を立て学習を進めることや授業の振り返りを通して自らやるべき課題を見い出せるような取り組みを実践していく。
	GIGA端末を活用した効果的な授業の在り方について、研修を重ねたり、具体的に情報交換をしたりしながら授業改善している。	GIGA端末の利用を始めて3年目に入ったが、調べ学習や発表の際の資料として活用するなど、効果的に活用できるようになってきた。まだ学年や学級での差が見られるので、学校全体での効果的な活用方法を引き続き探っていく。また、GIGAを使用する際のルールの徹底を図っていく。	高学年では、毎日のGIGA端末の持ち帰りも定着してきた。学習の中で効果的に利用していくためには、ローマ字で短時間に文字の入力をするのは必須なので、6年間を通して目指すスキルの共通理解を図っていく。
「思いやりのある子」の育成 豊かな情操と感性の育成	自分とは違う意見や少数の意見であっても、よさを認め大切にできるように指導している。	教師は100%、児童の90%が肯定的に捉えている。多様な意見を認め合い、友達の良いところを伝え合う活動を日常的に取り入れてきた。学級での話し合いだけでなく、クラブや委員会等の場でも引き続き力を入れていくとともに、認め合いが苦手な児童への支援を考えていく。	学校生活において、子ども同士のかかわりは最も大切であり、教職員が常に意識して指導にあたっている。相手に認めもらうことで安心感を感じ、自己肯定感が高まるようにしていきたい。
	いろいろな友達と一緒に協働して活動できるように指導している。	児童・保護者とも9割が肯定的に捉えている。教職員は、この設問も10割が肯定的回答である。コロナが5類になってから、様々な行事のやり方がコロナ禍以前にもどっており、引き続き感染対策を取りながらではあったが、協働的な活動、異学年交流など、かかわり合いを大切に教育活動を行うことができた。	150周年関連の活動を通して、友達と協力して活動することを楽しんでいる子が多いと感じた。次年度以降も、ねらいを明確にした効果的な活動に全校で取り組んでいく。また、関わり合いに苦手意識をもつ児童も増えてきているので、個々の状況に応じて丁寧に指導していく。
	いじめは、どのような理由があってもしてはいけないということを様々な機会 で指導している。	児童95%、保護者96%、教職員100%と肯定的な回答が最も高い半面、「わからない」を含めた否定的な意見が、児童保護者共に5%だったことが課題と感じる。職員自身が人権意識を強くもち、日々の教育活動で、繰り返し具体的に問いかけている。	「どのような理由があっても、いじめはいけない」というこの設問は、やはり100%を目指したい。日々起こるトラブルの解決についても、教職員自身が子ども一人一人を大切にするという人権意識を強くもち続けて指導に当たっていくとともに、保護者にももっと伝えていきたい。

「感性のある子」	「い」の充実	どのような子どもたちでも、居場所があり居心地がよくなるよう工夫している。	一人一人を大切に児童支援体制の充実を図り、個に応じた支援や教育相談を常に大切にしてきた。教職員の意識はそうあっても、児童の17%が「学校に行くのは楽しいですか」の設問に否定的な回答をしている。児童だけでなく、増加傾向にある支援が必要な保護者への対応についても課題である。	引き続き、個々の困り感への支援や保護者の教育相談の充実を図る。支援教育Coを中心に教職員が情報共有を密にしなが、個に応じた支援に努める。外部機関とも連携を図りながら、どの子どもにとっても学校は楽しい場所であると思えるよう努力を続けたい。教室にいけない児童が安心して利用できる相談室(別室)の在り方を確立させていく。
人権を尊重し、活気のある学校づくり「明るく元気な子」	運あ 推の 進の さ 進 つ	挨拶や言葉遣い、返事がきちんとできるように様々な場面で指導している。	児童の挨拶や言葉遣いについての肯定的な回答は8割に止まり、昨年より1割落ちている。挨拶には自信を持っている子どもたちだが、言葉遣いの乱れには自分たち自身でも気づいてはいるが直せないというのが本音のようである。友達が使っているから、ついという意識の子も多いので、日常的な言葉遣いについては、周りの大人が手本となれるよう心がけていきたい。	挨拶は、人と人が関わる際の大切なコミュニケーションなので、今後も人権意識をもった丁寧な言葉遣いの大切さを児童や保護者に伝えていきたい。正門での朝の挨拶運動は、児童理解においても重要だと考えているので、継続して行っていく。
	清掃 の活 推進	身の回りの整頓や掃除をしっかりとできるように指導している。	保護者の肯定的な回答が否定的な回答を下回るという設問である。児童の中にも、自分ができていないと自覚している子が3割程度いるのだが、なかなか切実感をもって取り組めてはいない。特に、トイレについては、毎年、「きれいなトイレを使いたい」という自由記述が多く寄せられているので、継続的に指導していくとともに、公共のマナーとして家庭での声かけも呼びかけていく。	整理整頓については、学級全体が乱れていると、自身の整理整頓に切実感が持ちにくいので、学級文庫やランドセルロッカー周辺の整理整頓を常に心がけるよう全校で共通理解を図り、各クラスで指導を徹底していく。次年度も引き続きトイレの使用法については、次に使う人への思いやりをもって使用する大切さを繰り返し指導していく。
	東よ一 一の大 の子 師徹 の底 約の	「大師小のやくそく」をきちんと守るように指導している。	「大師小のやくそく」は、一人一人が気持ちよく、安心して、楽しく学校生活を送るためにあるということを各学年に応じて指導・支援を行った。「なぜそのやくそくがあるのか」をしっかりと考え、守られる約束から、守りたい約束となるよう、話し合いを重ねている。児童、保護者、教職員ともに9割が肯定的に捉えていてそのよさが定着している。	「大師小のやくそく」については、今後も見直しや振り返りを行い、児童自らが意識して取り組めるようにしていく。何故その約束があるのか、教師からのトップダウンではなく、その必要性を子どもたち自身が納得して守っていけるよう、話し合いを重ねて取り組んでいくとともに、指導する大人側も共通理解を図っていく。
	発未い 見然じ 見防め 早止の 期対 対早 期	子どもたちの言動、友達関係等の様々な変化を感じられるように一人一人に声をかけたり、観察したりしている。	全ての教育活動の中で、子ども一人一人を大切に児童理解を推進し、児童や保護者の困り感に対応することに最も力を注いできた。しかし、児童が20%、保護者が24%、困った時に相談できる人が居ないと回答している。SNS等などを通じたトラブルなども増加傾向にあり、問題が一層見えにくくなっていることが課題である。	学校は、安全で、楽しく、一人一人が大切にされるところであるという当たり前なことを、引き続き大切にしていきたい。担任以外にも相談できる人がいるということを繰り返し広報していく。今後も担任だけでなく、管理職や支援教育Co、学年等を含めたチームとして対応し早期発見、早期対応に努める。
	学く 校過 づご くせ る	効果測定の結果を活用し、よりよい人間関係を築くことができるように工夫している。	効果測定はGIGA端末を活用して実施している。年3回(1年生のみ年2回)実施しているが、その結果から、自身の学級の特徴を捉え、児童一人一人へのきめ細やかな指導につなげていくということがまだ不十分である。今後も効果測定の結果や学校生活アンケートも踏まえ、豊かな人間関係づくりに努めていく。	効果測定の見取りと、見取った結果をどのように学級経営に生かしていくか、具体的な研修を積んでいく。日々の学校生活を注視するだけではなく、少しでも気になることがあれば進んで声をかけ、話を聞く、保護者に連絡するなどして、積極的にかかわっていく。
開 か れ た 学 校 づ く り	新型コロナウイルスが5類となつて以降、感染症対策をとりながら広く保護者や地域に学校を公開している。また、地域の様々な方々と直接かかわる学習内容を計画し、子どもたちが直接見たり聞いたり体験したりできる場面を大切にしている。	学校教育に理解が深く、協力的な地域である。創立150周年を迎えた今年度も、生活科や総合的な学習の時間を中心に、地域にあるお店、地域で活動するNPO団体、伝統文化を継承する方々と関わる活動を通して、自分たちの住む町に対する愛着が高まり、10月の式典の際には、各学年が趣向を凝らして、自分たちの住む町の良さを表現することができた。	創立150周年を期に、地域学習副読本「だいし」の見直しを図り、10年間で様々な変化した町の様子を改めてまとめることができた。副読本は、様々な授業の中で有効に活用していく。また、直接関わってくださる方々については、次年度以降も関係が続くよう、引継ぎをしっかりと行っていく。地域とのかかわりについては、様々なお便りやHP等でも発信していく。	

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<p>校舎内の清掃について、きれいに見える場所でも、よく見ると汚れが残っている場所もあった。(手洗い場など)昇降口に落とし物コーナーがあったが、コーナーを作って終わりではなく、拾われてきたものをきちんと管理し、定期的に処分する等、常に整理整頓を心がけていくことも、子どもたちの意識を高めるためには必要だと思ふ。</p> <p>まだまだ感染症の影響で学級閉鎖が続いているので、効果的な授業の配信ができるとうと思ふ。(配信を行った学級では、児童が参加の仕方に慣れていなかった)</p>	<p>・細かい内容については、各項目で記述してある通りである。</p> <p>次年度は、以下の点について重点的に取り組む。</p> <p>①困り感をもった児童や保護者に寄り添えるように、支援教育Coを中心に、状況に応じてSCやSSWとも連携を図りながら児童指導・個別指導や教育相談の充実を図り、引き続き支援体制の強化に努める。</p> <p>②経験の浅い教員も増えているので、児童指導や個別支援の在り方について、研修する機会を設けていく。</p> <p>③わかる楽しい授業を通して、主体的に問題解決に取り組む力を育てていく。</p> <p>④コミュニケーションのスタートとなる挨拶については、引き続き推進し、共感的・肯定的な言葉かけで子どもたちの姿をほめて認めていく。</p> <p>⑤他者意識をしっかりと持ち、相手のことを考えた言葉かけ・言葉遣いができるように指導を継続する。</p>